

PALSAR 干渉解析による日本列島変化モニター

Monitoring the Japan islands using the PLASAR Interferometry

島田 政信 [1]

Masanobu Shimada[1]

[1] なし

[1] EORC, JAXA

近年 SAR 干渉処理は処理能力を向上し、小領域の解析から脱皮して、島全体、国土全体、大陸全体へと処理領域を拡大する傾向にある。それにあわせて、これまで見えてこなかった様々な問題が見えてきた。1) 電波伝搬上の遅延要因、2) 地形縞の残留、3) 軌道制御精度、4) 領域と季節との干渉性の関係等が主立ったものである。今後、ALOS-2 が 14 日周期の軌道で地球を観測することから、PALSAR のデータを用いて日本全土の解析を通して、これらの問題がどのように顕在化しているかを確認する。